

平成28年度 日南市立細田中学校

自己評価 及び 学校関係者評価

ABCDの4階評価

経営ビジョン重点目標	役割達成度評価との関連	調査項目 No.	到達目標	自己評価	昨年度評価	自己評価		関係者評価
						項目別	総合	
(1)「豊かな心」の育成の推進	① 道德教育の充実に努める。 ② 体験的な活動を通して実践力を育てる。 ③ 基本的な生活習慣の確立に努める。	1	生徒は、相手を思いやる心が育ち、学校生活に満足感を持っている。	Aと評価する生徒は半数近くおり、概ね満足感をもっている。少人数を生かし、一人一人と向き合いながら指導に当たっている成果であると考える。しかし、CやDと評価する生徒が1年生では3割を占めるので、今後もきめ細かに見ていく必要がある。	A	B	A	A
		2	体験的な活動を通して、生徒の実践力が育っている。	8割を超える生徒・保護者、職員全員がAやBと回答しており、概ね達成している。	B	A		
		3	基本的な生活習慣(時と場合に応じたあいさつ、返事、反応、早寝早起き、朝ご飯)が身についている。	半数の生徒がAと評価しており、AやBと評価する生徒が9割を超える。保護者、教職員も高い評価であり、概ね達成しているが、1年生の保護者は半数がCやDと評価しているため、継続して指導していく必要がある。	A	A		
(2)学力向上の推進	① 授業の指導法の工夫・改善を行う。 ② 校内研究を推進する。 ③ 基礎・基本の定着を図る。 ④ キャリア教育の充実に努める。	4	生徒は、毎日の授業に対し、「わかる」「できる」喜びを感じている。	生徒や職員の8割はA、Bという高い評価である一方、保護者の約4割はCやDと評価している。特に、1年生の保護者の評価が辛く、期待の高さが表れている。	B	B	B	B
		5	各教科ともアクティブラーニングによる授業を実践し、生徒の学ぶ意欲を高めることができる。	9割の生徒と教職員がAやBと高く評価している一方、保護者は6割程度である。校内研修の取組や成果等を啓発していく必要がある。	B	B		
		6	生徒には、どの教科も、基礎的・基本的な能力が身についている。	「4」同様、生徒と職員の評価は高いが、保護者の期待値には届いていない。自由記述欄にも複数の意見があったとおり、学習面に不安を抱いている生徒への個別指導等何らかの手立てが必要である。	B	B		
		7	生徒は、進路や将来のことについてよく考え、保護者や教師と話し合っている。	キャリア教育を推進してきた結果、生徒・職員とも高く評価している。一方、1～2年生の保護者はやや不十分との認識をもっている。	A	A		
(3)小・中連携の推進	① 4校合同行事の推進を図る。 ○ 集合学習の充実 ○ 4校合同ボランティア活動の充実	8	細田地区4校で実施する合同ボランティア活動が充実している。	生徒・保護者・職員とも高い評価である。小中合同ボランティア活動の意義が生徒に浸透し、活動も定着してきている。	A	A	A	A
(4)特別支援教育の充実	① 学習支援を必要とする生徒への学習支援を行う。 ② 個別指導の充実に努める。 ③ 特別支援教育研修を充実させる。 ④ 教育相談を推進する。	9	困り感がある生徒への支援体制ができている。	困り感をもっている生徒に対する職員の共通理解は図られており、支援体制は整ってきている。しかし、充分な手立てを打つことができていない部分もある。	A	A	B	B
		10	個別の指導計画が作成され、その実践が図られている。	個別の指導計画に基づき、コーディネーターと関係職員の連携のもと指導に当たり、着実に成果を上げている。	A	A		
		11	校内研修が充実し、情報の共有化を図る場が設定されている。	特別支援教育に関する校内研修や定期的開催する校内支援委員会により、情報の共有化は図られている。	A	B		
		12	計画相談およびチャンス相談が実施されている。	生徒の実態から各学期に計画相談を設定する必要がある、次年度の計画に挿入することとした。	C	C		

校長所見

- 体験的な活動やキャリア教育の充実を図ってきたことにより、生徒の主体性や実践力は高まってきたと言える。また、本地区に残る純朴さや伝統、家庭の教育力により、生徒は基本的な生活習慣を身に付けている。今後も家庭や地域と連携を促進していく。
- 授業研究会を主体とした主題研究を通して、指導方法の工夫・改善に努めてきたことにより、概ね基礎的・基本的な学習の定着を図ることができた。次年度は、基礎学力が身に付いていない生徒への個別指導等の方策を講じていく。
- 特別支援教育の充実を図るために、校内支援委員会や校内研修を通して、共通理解を図り、手立てを講じてきたが、十分とはいえない。個々のケースに応じたきめ細かな指導や、専門家との連携を密に図っていく必要がある。

学校関係者コメント
授業の様子や学校行事、地域の活動に取り組む姿から、生徒は基本的な生活習慣や実践力を身に付けていることが伺える。 大きな問題もなく、長期的な不登校の生徒もおらず、皆が楽しく学校生活を送っていることに安心している。小さなトラブルやいざごはあるようだが、粘り強く指導の継続をお願いしたい。
学習に関しては、生徒は概ね理解し、基礎的・基本的な学力はついていようである。しかし、なかなか授業についていくことができない生徒もいるため、これまで以上に家庭とも連携を図りながら有効な手立てを講じていく必要がある。 1年生の保護者の評価が辛いのは、保護者への情報発信が不足しているからではないか。参観日等機会をとらえて、学校の取組を工夫して伝えていく必要がある。 キャリア教育に力を入れて取り組んでいるのがよくわかる。文化祭や振徳教育の日の発表でも、地域の産業等を取り上げた発表がすばらしかった。今後もこのような生き方教育を進めてほしい。
4校での活動が限られているため、定着してきたボランティア活動を今後も続けてほしい。
困り感がある生徒へ組織で対応していること、しかし一方では保護者の理解が得られず学校が苦勞していることがわかった。専門家との連携を図りながら、よりよい方策を見いだしてほしい。 また、悩みを抱えている子どもが多いことがわかった。子どもたちの変化に気付き、積極的に声をかけたり、じっくり話を聞いてあげたりする体制を整備していただきたい。

域と連携を図りながら子どもの成長

、